

衆の認識に及ぼす影響について明らかに心配していた。「実際に否定することなく、健康に対する非難についての疑問を生み出す」⁴ という全般的なアプローチとは対照的に、PO-210 論争に対処するための産業の戦略は、沈黙の誓いを立て、「眠れる巨人を呼び起こすこと」を避けることであった³。

タバコの煙から PO-210 を除去する取り組みに失敗し、タバコ産業の関係者は、生産レベルにおいて除去することは技術的に決して実現可能になることはないと確信した。タバコ会社の科学者には、紙巻きタバコの煙に含まれる PO-210 量は、肺がん誘発の主なリスク要因になるほど多量ではないと本当に信じていた者もいるが、企業の弁護士らはこの見解に同意していなかった。データを発表していれば、タバコ産業に有利な影響をもたらしていたかもしれないのだが、会社が法的に注目されることを回避するため、弁護士は、紙巻きタバコの煙に含まれる PO-210 量について発表されている報告に異議を唱えるデータを隠蔽することを主張した。数年間以上、内部の論争が続き、ほとんどの紙巻きタバコ製造業者を巻き込み、タバコの研究者が弁護士に対抗した。弁護士が勝利した。

タバコ産業は、PO-210 問題に関して沈黙を守っており、引き続き世間の反応を恐れていることを示唆している。消費者を対象とした喫煙と健康の情報を紹介する主要な多国籍のタバコ会社の現在のウェブサイトで、我々はタバコおよびタバコの煙に含まれる放射性粒子についての記載を見つけることはできなかった。我々は、紙巻きタバコに新たな有害警告ラベルを付ける提案を支持している：「米国公衆衛生局長官の警告：紙巻きタバコには放射性物質が入っています」⁹⁸。この表現は、放射能被ばくに対する世間の懸念を利用し、紙巻きタバコの有害警告ラベルの効果を上げるであろう。PO-210 を紙巻きタバコに含まれる発がん性物質の 1 つとして強調する健康に関するメッセージは、タバコ抑制の取り組みを支援するこ

とができるかもしれない。

著者について

Monique E. Muggli はミネソタ州ロチェスターのメイヨー・クリニックのニコチン研究プログラムで活動している。*Jon O. Ebbert* と *Richard D. Hurt* は、ロチェスターのメイヨー・クリニックのニコチン依存症センターに勤務している。*Channing Robertson* はカリフォルニア州のスタンフォード大学化学工学部に所属している。

転載の依頼は、*Richard D. Hurt* 医学博士、医学部教授、部長宛てに、*Nicotine Dependence Center, 200 1st Street SW, Mayo Clinic, Rochester, MN 55905* までお送りください（電子メール：rhurt@mayo.edu）。

この記事は2008年1月22日に受理されました。

貢献者

M. E. Muggli は、この研究を実施し記事を作成しました。*J. O. Ebbert* は研究および記事の執筆を支援しました。*C. Robertson* は記事を精査し編集しました。*R. D. Hurt* は調査のアイデアを考案し、記事の執筆を支援しました。

感謝

この研究は国立衛生研究所の援助を受けました（助成金 R01 CA90791）。

参加者の保護

この調査に実施計画書の承認は必要ありませんでした。

